



「冬の韓国岳」 吉村 正治画



宮崎県版

No. 310

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

宮崎県本部

〒880-0031

宮崎市船塚3-193

電話 0985(26)4224

FAX 0985(20)3154

郵便振替口座

02070-9-11382

私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

一、 治安維持法体制の復活に反対する

二、 国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること

三、 国は治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと

種田山頭火を知ろう

原 秀樹

2021年が新型コロナ禍の中で明けました。今年は故郷山口県下関市への帰省を中止しました。

山口県の俳人として種田山頭火が有名ですが、彼は防府市の出身です。しかし、彼にとって故郷は、母の自死、家の没落など、良い思い出はありません。熊本へ妻と転居しますが、家庭生活には不向きで、曹洞宗の僧として出家・得度し堂守をしていましたが落ちつかず、放浪の僧として全国を行脚（行乞）しました。宮崎県にも数度訪れています。

『分け入つても分け入つても青い山』

が最も有名な句で、五ヶ瀬町にはこの句が書かれた句碑があります。また、県内には都城の3基を初め、5基以上の句碑があります。

山頭火の作品の中に「銃後」という章があり、その

中には満州事変や日中戦争当時の日本の状況が山頭火の視点で詠まれており、社会性の薄い山頭火にしても戦争を詠まではいられない状況だったのかと新たな発見と感銘がありました。その中の数句を紹介します。

いさましくもかなしくも白い函
街はおまつりお骨となつて帰られたか
馬も召されておぢいさんおばあさん
足は手は支那に残してふたたび日本に
山頭火は、その時の気持ちを素直に句にしただけかもしれませんが、今後、再度、山頭火は見直されてもいいのではないかでしょうか。

たず、薄着で出かけ、急な雨に打たれ、そのままの状態でいると、気温がそれほど低くなくとも低体温症になります。人体の深部体温は通常 $37.5^{\circ}\text{C} \sim 38^{\circ}\text{C}$ 位ですが 35°C を切ると体が体温をあげようと震えが激しくなり、つまずきやすい、ろれつが回らないなどの症状が現れる。震えがある内に適切な対処ができるないと体温が一層低下し、判断力が鈍り、自力での回復が困難になります。さらに進行すると内臓の機能が低下し、意識がなくなり、脈や呼吸の数も減っていきます。最終的には心肺停止になります。

① きちんと対策をとること

～食べる～

カロリーは体内で熱を产生し体温をあげます。このためエネルギーの補給が欠かせません。体が震え始めたら、もう低体温症予備軍です。積極的に食べよう。

熱產生に効率が良いのは炭水化物。アンパンのアンコには即効性のあるブドウ糖があり、パンは長持ちするデングン質を含むダブル効果の炭水化物。非常食を兼ねて持つておくとよい。ただし、低体温症にはパンをひとつ食べたくらいではエネルギーが追いつきません。最低で1000キロカロリー（大きなパンで3kg）を4個）を目安にしたい。

また、風や雨から身を守るために、岩陰、ツェルト、



寒さを避けてハウスの一隅に避難していた数十鉢。いつの間にか花が一輪。気付くのが遅くなつてごめんなさい。

< お願い >

会費や募金を郵便局で振り込む際に使用している振込用紙の同盟の事務所の住所が、2020年より変更になっています。
2019年以前に配っている用紙では振込はできますが連絡は亡くなった前事務局長の住所にいってしまいます。

必ず新しい用紙を使ってください。

遭難の話をします。26年前、私はヒマラヤ登山に備えて北アルプス鹿島槍ヶ岳を越え冷小屋方面への登山を計画。メンバー9名でした。

その日は12月31日。吹雪で午後三時頃には暗くなり、視界が効かず牛首でビバーク（不時露営）しました。その夜は一晩中暴風雪が荒れ狂っていました。3歳下の後輩と仕事関係の友人でした。嵐は收まらずに夜が明けました。明るくなつたので行動を開始しましたが、後輩がダメージを受けて足元がヨロヨロしています。急いで先に進み、テントを設営してその中に収容し、寝袋に入れました。

もう大丈夫と思っていたところ、急にガバッと起き上がり、バタンと倒れてそのまま静かになりました。顔をみると眠つているようでしたが頸動脈に指を当てると脈を打つていません。あわてて心臓マッサージとマウストウマウスを続け、大町の警察と連絡をとりましたが、救命措置30分を越せばもういいだろうと言われ、それが後輩の死亡時刻になりました。9名の中の一名が落命したのは低体温症だったのです。勿論冬の北アルプスの猛吹雪の中、気温が低いのは当然ですが低体温症は宮崎の自然の中でも起きます。換え着を持

山小屋などに身を寄せる。衣服が濡れいたら着替え、防風防水性のある衣類を外側に着る。地面には直に座らず、ザックなどを敷いて体温が逃げるのを極力防ぐ。

～保温～

防寒着や寝袋、毛布などで体を覆い、保温に努める。

～加温～

お湯を沸かして湯たんぽを作り胸にあてる。接触する面積を広くすることがポイントなので、袋状の水筒に入ると効果的。使い捨てカイロでは不十分で、ストーブや焚火にあたつても体に伝わる熱は限られ、大きな効果は得られない。湯たんぽの温度は高い方が体に伝わる熱が大きくなる。やけどをしないようにタオルや衣類でくるむとよい。

② 周囲の人人がやつてはいけない危険な処置

～手足を温める～

手足は温めないこと。手足の血管の巡りが改善すること、手足の温度の低い血液が心臓に戻つてしまい、より体温が低下することになる。まず、体幹（胸）を温めることが先決である。

意識が少しでも低下し始めると心臓が非常に敏感な状態になり、体をさする刺激により心停止を引き起こすことがある。さする行為に体温をあげる効果はないので全ての低体温症に行わないようにする。

遭難・低体温症

鳥井 修一

背すじが寒く

馬場園 幸次

立春が過ぎ、まだ寒さが残る中にも時折の暖かさにホツとしています。そんな中、本当に背すじが“ゾクゾク”とした体験を記します。

昭和二十年の敗戦時、私は七歳。まさに“チャンバラごっこ”とか“戦争ごっこ”に夢中でした。ただ、今でも忘れられないひとつは、八月十五日のことです。近所の人たちが輪になり、黙つて下に向いて立つている姿。その数年後、敗戦の“玉音放送”だつたと理解することになりました。

社会に出てから組合運動とか社会的活動をするなか、現在すでに九十歳前後の先輩から何時も聞かされたのは、時の権力が右傾化すると“戦前の状況にてきた”とか“きなくさくなつた”的言葉でした。ところがその時は頭をスッと通り過ぎていたのです。

しかし、今回の菅による学術会議会員任命拒否の一報には怒りより前に背筋がゾツとしました。先輩たちの体験の真の意味を納得した次第です。

うつ
尊・鬱 引き続き厳重警戒・医療崩壊が始まった。民衆の怒涛の怒りの声に自・公・維の議員は辞職。総選挙の結果、共産党を含む野党政権成立。予算の組み替え、辺野古基地作りを即時中止、日米安保を破棄、友好条約締結、日本から米軍は一兵も居なくなる。超大企業・超富裕層に相応の税金を課し、年収200万以下は無税、日給150円、年金者の最低保障年金月5万円。全ての公私立校は無料、鉄道・郵便は国有化、文化芸術復興基金の設立。何よりも核兵器禁止条約への参加。目が覚めた。背伸びして、大きく息を吸って、夢実現に踏み出そう。

言葉はいつさい使わないと誓ってきたが、戦争だけは“絶対反対”を言い続けると語つておられました。了



心がはれないこと